

第3期中期目標・中期計画

(部局名 金属材料研究所)

中期目標	中期計画
<p>(前文) 部局の基本的な目標</p> <p>金属材料研究所は、創立以来物質・材料研究の中核研究所(COE)として、国際的に物質材料科学研究を先導し、数々の新物質・材料を創製してきた。これらの物質・材料は20世紀の高度産業社会の基盤構築に大きく貢献した。21世紀においても、金属を中心とした広範な物質・材料を対象とした国際的なCOEとして、材料科学に関する学理の探究と応用の研究によって、新物質・材料の創製を行うとともに、高度な材料科学研究者を育成し、環境・エネルギー、生体、情報・通信、高度安全空間など、最先端科学・工学の基盤となる材料科学の推進を図り、文明の発展と人類の幸福に貢献することを基本的な目標とする。</p>	
<p>◆ 中期目標の期間</p> <p>平成28年4月1日から平成34年3月31日までの6年間とする。</p>	
<p>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標</p>	<p>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p>
<p>1 教育に関する目標</p> <p>材料科学に関する学理の探究と応用の研究を通じて、高度な材料科学研究者を育成する。</p> <p>(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標</p> <p>1. 異分野融合型人材を育成する。</p> <p>2. 次代の世界トップレベルの材料科学研究者を育成する。</p> <p>(2) 教育の実施体制等に関する目標</p>	<p>1 教育に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1. 博士課程学生に対して、異分野融合的教育を行い、国内外の学会やワークショップへの参加・発表を奨励・支援する。</p> <p>2-1. 中核的材料科学研究者を育成するため、様々な研究資金によって博士研究員を受け入れる。</p> <p>2-2. スピントロニクス国際共同大学院及びリーディング大学院MDプログラム等の教育プログラムを活用することによって、世界トップレベルの博士人材の養成を推進する。</p> <p>(2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置</p>

<p>(3) 学生への支援に関する目標</p>	<p>(3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置</p>
<p>(4) 入学者選抜に関する目標</p>	<p>(4) 入学者選抜に関する目標を達成するための措置</p>
<p>2 研究に関する目標</p> <p>材料科学に関する学理の探究と応用の研究を通じて、学術と産業の発展に貢献する。</p> <p>(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標</p>	<p>2 研究に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置</p>
<p>1. 基盤研究及び世界を牽引する最高水準の研究を推進し、材料科学分野での世界的 COE の地位をより強固にする。</p> <p>2. 社会的課題を明確に意識した重点的に取り組む応用研究分野として「エネルギー」、「安全・安心空間」、「健康・医療」の分野において世界最高水準の研究を推進する。</p>	<p>1-1. 小部門制のもと各研究者の自由な発想に基づく基盤研究とセンターを活用した特色ある研究を推進する。</p> <p>1-2. 高い水準での実績をもとに、大学の枠を超えて全国に開かれた材料科学共同利用・共同研究拠点としての使命を遂行し、共同利用・共同研究を実施する。</p> <p>2-1. エネルギーの生成・変換・貯蔵・輸送の高度化に資する新材料創製の研究を推進する。</p> <p>2-2. 社会インフラの安全・安心の向上に資する新材料創製の研究を推進する。</p> <p>2-3. 健康の増進と医療技術の向上に資する新材料創製の研究を推進する。</p>
<p>(2) 研究実施体制等に関する目標</p>	<p>(2) 研究実施体制等に関する目標を達成するための措置</p>
<p>1. 研究成果が最大化される研究実施体制を構築する。</p>	<p>1-1. 所内外を問わず複数の教員が参画する特定の研究領域をセンター化するなど、単一の研究部門ではなし得ない研究成果を創出・発展させるための効率的・組織的なサポート体制を構築する。</p> <p>1-2. 材料科学研究分野における東北大学の世界的位置付け・地位を高めることに貢献するために、学内の関連する他部局との連携を強化し、世界トップレベルの国際共同研究を推進する。</p> <p>1-3. 年々減少していく限られた人件費の中で最大効率の研究成果を生み出すため、研究部門等への最適な教員席配置を行う。</p> <p>1-4. 研究部門、研究者個人のインセンティブを高める制度を構築するとともに、本学の戦略的人事制度の導入・推進により、きめ細やかな個人業績評価を実施する。</p>

<p>2. 材料科学共同利用・共同研究拠点として、材料科学コミュニティに貢献するとともに、国際的な共同利用・共同研究を組織的に推進する。</p>	<p>1-5. 小部門制を維持しつつも、若手研究者の活躍を促進することを目的として独立准教授部門の設置を行う。</p> <p>1-6. 広報、点検評価、情報環境整備、安全管理などの研究支援業務の機能強化を図り、研究支援体制を拡充する。また、リサーチアドミニストレーター（URA）と情報企画室が連携して、材料科学研究の動向・評価分析を実施し、新規研究プロジェクトの企画立案・実施に取り組む。</p> <p>2-1. 研究部・所内各センターで共同利用・共同研究を推進するとともに、拠点としてインフラ整備、研究者の受け入れの体制作りなどを継続する。</p> <p>2-2. 国際共同研究センターが行う国際共同研究支援を国内の共同利用・共同研究と連携させることによって、よりグローバルな共同研究支援体制を構築する。当センター国際交流室は、国際関係事業を一元的に取り扱い、国際交流活動を推進する。</p>
<p>3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標</p> <p>産学連携活動を推進し、ものづくり分野の振興に貢献する。</p>	<p>3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標を達成するための措置</p>
<p>1. 積極的に研究成果の社会化を推進するとともに、本所が有している知識を地域・文化に還流する。</p>	<p>1-1. 産学官連携活動を強化し、新産業創出に繋がる基盤技術の共同研究、大学シーズの技術移転、ものづくり人材の育成等に取り組む。</p> <p>1-2. 広く産学連携による研究を推進し、地域・文化に本所が有している知識を還流するために、各研究部門や各センターが持つ研究シーズを積極的に発信するとともに、広報活動の充実、一般公開を実施していく。</p>
<p>4 災害からの復興・新生に関する目標</p>	<p>4 災害からの復興・新生に関する目標を達成するための措置</p>

<p>5 その他の目標</p> <p>(1) グローバル化に関する目標</p> <p>1. 世界トップレベルの材料科学コミュニティの形成を目指す。</p>	<p>5 その他の目標を達成するための措置</p> <p>(1) グローバル化に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1. 国際共同研究センター（ICG-IMR）を中心とした材料科学の国際的ネットワークを拡充する。</p>
<p>II 業務運営の改善及び効率化に関する目標</p> <p>(1) 組織運営の改善に関する目標</p> <p>1. 所長のリーダーシップの下、本所運営に関する各委員会・室等の役割の最適化・明確化を行う。</p> <p>(2) 教育研究組織の見直しに関する目標</p>	<p>II 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>(1) 組織運営の改善に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1. 本所運営に関する各委員会・室等の所掌を見直し、効率的かつ迅速に意思決定できるような体制作りを進める。</p> <p>(2) 教育研究組織の見直しに関する目標を達成するための措置</p>
<p>III 財務内容の改善に関する目標</p> <p>1. 外部研究資金により財務内容の改善を図る。</p>	<p>III 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1-1. 外部資金獲得に対する教員のインセンティブを高め、URA、情報企画室および担当係による情報収集と分析および情報提供、申請書作成時の事前レビュー等、所としてのバックアップを行うことにより多くの外部研究資金を獲得する。</p>
<p>IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標</p> <p>1. 定期的に研究アクティビティの整理、外部評価を実施していく。</p>	<p>IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1-1. 情報企画室を中心に、定期的に自己点検評価を実施するとともに、外国人を含む外部委員から成る外部評価委員会を開催し、本所の活動全般に対して評価を受ける。</p> <p>1-2. 所外委員による運営協議会を開催し、共同利用・共同研究体制を含む本所の運営について助言を受ける。</p>
<p>V その他業務運営に関する重要目標</p> <p>1 施設設備の整備・活用等に関する目標</p> <p>1. 適切な情報セキュリティ対策を実施する。</p> <p>2. 学内高性能計算基盤群の連携に向けた運用ノウハウの共有化を図る。</p>	<p>V その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1. 情報企画室を中心に、所内構成員への注意事項配布などの情報提供を行うとともに、アクセス制限やライセンス使用条件遵守などの自己チェックを徹底する。</p> <p>2-1. 計算基盤の特性を踏まえ独自性を維持しつつ、学内の計算基盤の管理・運用に係る技術交流に協力する。</p>

<p>2 安全管理に関する目標</p> <p>1. 業務上の危険・有害性に対して、関係法令遵守等を徹底することで事故防止に努める。</p> <p>2. 防災意識を高め、災害発生に対して適切に対処できるようにする。</p>	<p>2 安全管理に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1. 安全衛生管理室を中心に、所内点検、講習会開催、周知活動等を行い所内の安全意識を高める。</p> <p>2-1. 所内への防災対策の周知など啓蒙活動を実施するとともに、防災訓練を定期的に行い、災害発生時の対応を確認する。</p>
<p>3 法令遵守に関する目標</p> <p>1. 研究に関する法令順守を徹底する。</p> <p>(2 安全管理に関する目標へ移動)</p>	<p>3 法令遵守に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1. 研究倫理教育及び啓発活動を推進することにより、研究資金の使用ルール遵守、個人情報保護および業務の適正かつ効率的な運営の徹底を図るとともに、コンプライアンス教育受講、事務手続き説明会等を通じて、研究資金の適正使用および各種業務の手続きについて教職員及び学生の理解を深める。</p>
<p>4 その他業務運営に関する重要目標</p> <p>1. 本所の研究成果や活動を研究者はもちろん、研究者以外にも広く発信する。</p>	<p>4 その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1-1. 材料科学に対する関心を持ってもらうために、情報企画室を中心とした研究成果や講演会開催等の情報提供を進め、本多記念室や資料展示室の一般公開を引き続き行う。また、見学希望者への見学受け入れを積極的に行うとともに、片平まつり等の一般公開時には研究成果をわかりやすい形で市民へ発信する。</p>